道徳だより「清明（せいめい）」　第6号

令和７年１２月３日発行
美川中学校道徳係

１１月１４日（金）に本校が県より指定された「いしかわ道徳教育推進事業」の研究発表会がありました。石川県・白山市教育委員会をはじめ、市内外を問わずたくさんの先生方をお招きし、今年度本校が道徳の時間を通して実践してきた様々な取り組みをお披露目する場となりました。公開授業として１年２組、２年３組、３年１組で授業を行いましたが、各学級とも子どもたちはたくさんの思いを伝え合い、考えを深める授業が展開されていました。その中から今回は、１年２組の授業の様子をお伝えします。

○１年２組　道徳公開授業

＜内容項目＞　**Ｄ生命や自然、崇高なものとの関わり　よりよく生きる喜び**

＜教材名＞　「いつわりのバイオリン」

＜あらすじ＞
腕のよいバイオリン職人フランクは、納得のいかない作品には自分のラベルをはろうとしなかった。
著名なバイオリニストからの注文を、十分な時間がないにもかかわらず引き受けたフランクは、昼夜を問わず制作にはげむが、満足のいく作品ができず、弟子であるロビンの作品に自分のラベルをはって、バイオリニストにわたしてしまう。
フランクは巨額の謝礼金や名誉を得たが、心はゆううつだった。ロビンなどの弟子たちは去り、工房は活気を失っていった。
そんなある日、ロビンから手紙が届き、それを読んだフランクは涙をこぼす。

＜発問＞　１　「フランクの涙には、どのような思いが込められていたのか」
２　「もし自分がロビンなら、フランクに手紙を出すことはできるか」
３　「ロビンはどのような思いで手紙を出したのか」

＜授業の様子＞

＜生徒のワークシートより＞　「自分に恥じない、誇り高い生き方」について考えたこと

- 自分や他人にうそをつかず、自信を持って生きることだということがわかった。
- うそをついてしまっても、すぐに謝ることができる素直な人になりたい。
- 自分の弱い所も恥じずに、全面に出すことが自分に恥じない、誇り高い生き方だと思う。
- フランクに勝手にバイオリンを使われたのに、何も言わず感謝の手紙まで送れるロビンがすごいと思った。素直に感謝できることが自分に恥じない誇り高い生き方だと思った。
- ロビンは傷ついていたと思うけど、打ち明けずに師匠と暮らした日々が生涯の宝と言っていて、師匠にもっといいバイオリンを作って欲しいと考えていると思った。
- 嫌なことがあってもポジティブに捉えて、前向きに生きることが大事だと思った。
- 自分もフランクだったら、絶対に同じことをしていると思うし、うそをつくと思う。でも、うそをついたなら反省して切り替えていけばいいと思う。